

2024年1月12日

検討委員会 資料1

「第3期町田市特別支援教育推進計画（案）」に関する
意見募集の実施結果

2024年1月

町田市教育委員会 学校教育部教育センター

「第3期町田市特別支援教育推進計画（案）」に関する 意見募集の実施結果

第3期町田市特別支援教育推進計画の策定にあたって、下記の通り意見募集を実施いたしました。皆様から貴重なご意見をお寄せいただき、誠にありがとうございました。

1 意見募集期間

2023年11月29日（水）～2023年12月19日（火）

2 意見募集方法

まちだ子育てサイトに「第3期町田市特別支援教育推進計画（案）」へ資料を掲載、及び町田市立小中学校、都立町田の丘学園、子ども発達センター、市民センター、町田市立図書館、子どもセンター等において資料の閲覧・配布をいたしました。

3 寄せられたご意見

10名の方から43件のご意見をいただきました。なお、取りまとめの都合上、いただいたご意見は要約し、掲載しています。

第3期町田市特別支援教育推進計画（案）の意見募集結果

＜計画全般に関するもの＞（4件）

番号	ご意見の概要	市教育委員会の考え方
1	<p>校長・教員で学校の様子や雰囲気が変わる。各学校の特色があるのは良いが町田が目指す特別支援教育について、通常級を含むすべての先生に理解していただきたいと思う。町田の特別支援教育の土台を共通にした上で、各校の特色を生かしてほしい。</p>	<p>特別支援教育は、特別支援学級やサポートルームといった学びの場はもちろん、通常の学級も含めたすべての小中学校において行われる必要があります。一人ひとりの児童生徒に適切な支援を行うために、すべての教員に対して特別支援教育の理解を深め、実践力、専門性の向上を図るよう推進してまいります。</p>
2	<p>第3期の計画は第2期に比べ大分踏み込んだ内容になっていると感じた。「はじめに」を読んでも特別支援学級やサポートルームの児童生徒だけではなく、すべての子どもたちに対して必要な視点で記載されていることにも表れていると思う。</p> <p>第3期の計画は現在の課題に対して積極的に立ち向かった内容であり、特別支援教育の先進自治体としてこの計画を実行してほしい。</p>	<p>特別支援教育は、前述のように通常の学級も含めたすべての小中学校において行われる必要があります。特別支援教育をさらに充実させていくために、この計画を着実に推進してまいります。</p>
3	<p>児童生徒や保護者の意見を取り入れるというのは積極的なスタンスだと思うが、どのように意見を取り入れたか自分たちの声が反映されていることがわかるようにすると、さらに次の意見につながっていくと思う。</p>	<p>第3期の計画の推進にあたっては、児童生徒や保護者、また現場の教員等の意見を反映させていくことが重要であると考えております。アンケート結果やその対応策、今後の方向性などについてHP等で公表のうえ、事業の改善を図ってまいります。</p>
4	<p>当事者である児童生徒の聞き取りアンケートは大変良いと思う。アンケート内容の作成は難しいと思うがお願いしたい。</p>	<p>第3期の計画の推進にあたっては、前述のように当事者の意見を反映させていくことが重要であると考えております。アンケート調査の内容、実施方法等については、十分検討し、多くの方のご意見をいただけるよう努めてまいります。</p>

<特別支援教育の現状に関するもの> (3件)

番号	ご意見の概要	市教育委員会の考え方
1	町田市の学びの場について、サポートルーム、知的障がい学級、自閉症・情緒障がい学級の説明があるが、実際にはLD、ADHD、ASDは併発していることが多く、くっきりとは分れてはいない。知的障がい学級でもサポートルームでもない狭間の子どもがたくさんいる。特にADHDやASDでLDを併せ持っている子は、知的障がいがなくとも知的障がい学級を選ぶか、無理してサポートルームに行くかの決断を強いられている。	様々な課題を抱えるお子さんの一人ひとりの特性、状態は一様ではございません。同じ自閉症スペクトラムという診断でも学校生活上の困難さはそれぞれ異なります。 町田市では、就学・進学相談において、学校生活上の課題を総合的に検討し、お子さんにとって望ましい就学先について、保護者とともに考えております。
2	教員研修制度の内容について重要なもののアンケートに特別支援教育に関する研修を挙げた教員が39.1%もいることは、昔に比べて関心が向けられるようになったかと思うが、研修といってもいろいろあり、具体的にどういう研修を望んでいるのか。	2022年に実施された「町田の教育についてのアンケート調査」では、希望する具体的な研修内容までは調査しておりません。 今後のアンケートや連絡会等で現場教員の意見を聴取する機会を確保し、研修内容に反映させていきたいと考えております。
3	特別支援学級の児童生徒数は、中学校では「自閉症・情緒障がい学級は増加」「知的障がい学級は微増または横ばい」になっている。 情緒の特別支援学級対象と思われる生徒が、通常級や知的障がい学級に在籍していると感じるため、自閉症・情緒障がい学級対象の生徒はもっと多いと思う。	中学校の自閉症・情緒障がい特別支援学級は2022年度に新規開設しております。 特別支援学級の児童生徒数については、今後の動向を注視し、特別支援学級の新規開設等の施策を進めてまいります。

<第2期推進計画の取組に関するもの> (2件)

番号	ご意見の概要	市教育委員会の考え方
1	要請訪問が、2020年度が47回に対し、2022年度は6回と極端に減っていることが気になった。サポートルームの利用や特別支援学級に在籍する児童生徒が増えている中で校内だけできちんと対応できているのか、この減り方に不安を感じる。	2022年度は、校内研究をはじめ、サポートルームの個別指導、学級担任に対する指導・助言を行うアドバイザー訪問の校数を増加しました。また緊急対応が必要な際に学校を訪問する緊急訪問を重点的に取り組みました。そのため、要請訪問の件数が減っております。

2	第2期の振返りで切れ目のない支援体制の構築で、成果として保護者のニーズに応じた支援、町田の丘学園との連携とあるが、その成果を具体的に教えてほしい。	保護者のニーズに応じた支援として保護者向けの特別支援教育に関するリーフレットの作成や特別支援学校への同行訪問などを行いました。 また、町田の丘学園との連携については、学校説明会の協力や町田の丘学園と市内小中学校との交流連絡会及び交流教育を実施いたしました。
---	---	---

<基本目標1「専門性の向上と学校支援の充実」に関するもの> (14件)

番号	ご意見の概要	市教育委員会の考え方
1	知的障がい特別支援学級・サポートルーム教員の研修は、指導経験年数に応じた複数コースが設定されているが、自閉症・情緒障がい特別支援学級の研修同様に、授業研修も取り入れても良いと思う。町田の特別支援教育の土台を共通にして欲しい。	教員研修の実施において、特別支援教育の理解促進や充実を図るための参考とさせていただきます。
2	教員研修で知的障がい特別支援学級・サポートルーム教員研修が画一的でなく3つのコースが設定してあり良かった。今後も続けてほしい。集合型の研修は、人数が多すぎるように感じた。2部制又は一日研修でも良い。教員同士の情報交換などもあっても良いと思う。	今後も教員のニーズに応じた実施方法で教員研修を行ってまいります。
3	教員研修でベーシックコース、アドバンスコース、マスターコースと選べるのは良いと思うが、指導経験が豊富な主任又はそれに準ずる教員でも、ベーシックコースを学ぶ必要のある方がいるように思う。	教員研修の対象においては、実態等を踏まえて引き続き検討してまいります。
4	特別支援学校教員免許がなくても、特別支援学級の担任になったり、中学校では自分の専門以外の教科を担当しなければならない、先生方も戸惑うだろうと思う。アドバイザー訪問指導や教員研修など検討していただきたい。	それぞれの学校に応じて状況が異なることから、学校と相談しながらアドバイザー訪問や教員研修の充実を図ってまいります。

5	<p>特別支援学級に配置される教員は、必ず十分な研修を受けてから配置されるべきと考える。</p> <p>新規採用の教員がすぐに特別支援学級に配属されると、教員も悩み、保護者も困ってしまう。</p>	<p>特別支援教育に関わる教員の専門性の向上は、すべての教員にとって必要であると考えております。</p> <p>学校現場でのOJT及び校内研修の充実を図ってまいりたいと考えております。</p>
6	<p>授業リーダー育成事業の授業公開は、悉皆研修にしてほしい。</p> <p>授業から抜けて見学に行くことは一部の教員しか参加ができない。生の授業を見学する価値は大きい。</p>	<p>いただいたご意見につきましては、教員研修の実施において、特別支援教育の理解促進や充実を図るための参考とさせていただきます。</p>
7	<p>支援力の向上や授業改善があるが、研修だけでなく、教員同士のモデル授業、指導主事などによる授業観察などを通じてさらに授業のレベルアップを目指してほしい。</p>	<p>特別支援教育推進モデル校事業及び授業リーダー育成事業において、指導主事等が直接学校現場に訪問し、教員の専門性の向上、授業改善に向けた指導・助言を行っております。</p>
8	<p>専門家チームを希望校に派遣となっているが、学校からの要請に応じてだけではなく、支援級担当の主任または教員が半数以上入れ替わった学校に対しては、初年度は必須でも良いと思う。</p>	<p>いただいたご意見につきましては、特別支援教育の充実を図る際の参考とさせていただきます。</p>
9	<p>学級種別ごとのハンドブックの作成は大変良いと思う。作成した後が重要で、活用の仕方や内容に関する研修を年度初めにできると良いと思う。</p>	<p>学級種別ごとのハンドブックについては、対象教員に配布のうえ、実践的に活用できるよう、研修会等で活用してまいります。</p> <p>また、校内研修等でも積極的に活用するよう周知いたします。</p>
10	<p>せっかくいいハンドブックがあるので、積極的に活用するように周知してほしい。</p>	<p>積極的に活用できるよう、さまざまな機会を通じて周知をしてまいります。</p>
11	<p>授業の教材にどこの学校の先生方も苦労されているのではないかと思う。共通で使える教材などを共有し合うことを検討してほしい。</p>	<p>授業研究や作成教材などの成果を学校間で共有できるよう、検討してまいります。</p>
12	<p>特別支援教育充実に向けたアウトリーチは、実際にあった活用事例などを教員が共有できたらよいと思う。</p>	<p>教員研修会や連絡会等を活用し、事例の紹介や共有を図ってまいります。</p>

13	特別支援教育コーディネーターは保護者に対する相談窓口と書いてあるが、保護者にコーディネーターの存在は周知されているのか。	特別支援教育コーディネーターの役割は、研修会や連絡会等でコーディネーターに周知しております。 保護者の方への相談窓口としての役割、機能についても引き続き学校を通じて周知を図ってまいります。
14	特別支援学級やサポートルームを希望する教員を増やすために、キャリアアップにつながる研修を検討していただきたい。	特別支援学級やサポートルームの魅力のアピールやキャリアアップにつながる研修などは、内容を検討し行ってまいります。

<基本目標2「保護者支援に向けた相談体制の充実」に関するもの>（2件）

番号	ご意見の概要	市教育委員会の考え方
1	情報提供の充実で就学相談の動画や特別新学級のリーフレットを見たが、大変わかりやすい内容だった。たくさんの方々に見てほしいと思う。	まちだ子育てサイトに就学相談についての資料や動画を掲載しております。引き続き多くの方に必要な情報が届くように広く発信してまいります。
2	就学・進学相談会について保護者や委員向けのアンケートの実施は、2023年度から検討を始めて2026年度から実施となっている。時間がかかりすぎるように思う。早急な対応が必要ではないか。	就学・進学相談会については、現在も保護者や委員の方のご意見を踏まえ、課題については改善しながら毎年度実施しております。第3期では、就学相談を受ける保護者全員から意見を伺うことができる仕組みを検討してまいります。

<基本目標3「教育環境の充実」に関するもの>（4件）

番号	ご意見の概要	市教育委員会の考え方
1	特別支援学級の整備はハード面、ソフト面ともに必要性を感じている。	児童生徒が安心して学校生活を送れるように、学級の環境整備を引き続き進めてまいります。
2	自閉症・情緒障がい特別支援学級をもっと増やしてほしい。	自閉症・情緒障がい特別支援学級は、第2期計画において3校の学校に新規開設をいたしました。 今後も第3期計画に基づき、新たな学校づくりとともに自閉症・情緒障がい特別支援学級の新規設置を進めてまいります。

3	知的障がい特別支援学級、自閉症・情緒障がい特別支援学級をすべての小学校への設置を目指しているのはとてもいいと思う。中学校についても、自閉症・情緒障がい特別支援学級は町田第三中学校のみなので今後は増やしていく計画を盛り込んでほしい。	中学校の自閉症・情緒障がい特別支援学級は、今後も需要があることが見込まれています。第3期計画においては、今後の在籍生徒数の動向を踏まえ、特別支援学級の新規開設を検討してまいります。
4	サポートルームで使用する教室や職員室等の設備の充実をお願いしたい。特に Wi-fi 等のネットワーク環境を整備していただきたい。	サポートルームや特別支援学級での指導が充実した環境で行えるように、引き続き環境整備を進めてまいります。

<基本目標4「共生社会を目指した連携強化」に関するもの>（3件）

番号	ご意見の概要	市教育委員会の考え方
1	共生社会を目指した連携強化をあげているが、インクルージョンについての記載が少ない。 市内小中学校における、通常級、サポートルーム、特別支援学級のインクルーシブ教育についてどのように考えていくのか。	インクルージョンとは、障がいの有無に関わらず、同じ社会の中で支え尊重するとともに、多様性を生かそうとする共生社会を意味しています。お互いを理解し合い、ともに成長していくために、交流活動を進めていくことを含めて、どのような活動を行うことが望ましいのかを今後も検討してまいります。
2	町田の丘学園の先生が研修講師として学校に来校していただき、大変ありがたく思っている。今後も定期的に特別支援学級に来室して助言をいただくようなシステムがあるとより良いと考える。 市内の都立高等学校や町田の丘学園等と小中学校との特別支援教育に関する連携を強め、合同研修等を実施して、情報交換や互いの取組を共有できると良い。	町田の丘学園への特別支援教育に関する研修の依頼や、児童生徒への指導・支援についての助言等は、センター的機能の取組として位置づけられています。 今後も都立特別支援学校との連携を強化し、特別支援教育への理解が深まるよう取り組んでまいります。
3	子ども発達センター以外にも医療的ケア児を含む民間の児童発達支援事業所が開設されているので、就学にあたっては民間の事業所に対しても情報提供などをお願いしたい。	民間の児童発達支援事業所への情報提供については、個人情報保護の観点もことから、保護者の方を通じて情報提供をお願いしております。

<不登校対策・進路に関するもの> (4件)

番号	ご意見の概要	市教育委員会の考え方
1	特別支援学級に不登校になった子どもがいる。学校以外にも子どもが安心できる居場所や学びの場づくりをお願いしたい。	不登校の状態にある子どもに対し、「学びの多様化プロジェクト 2024 -2028」を策定し、多様な学びの場につながるよう支援を行ってまいります。
2	不登校になっている生徒の進路指導は通常級の先生にはカバーしきれない部分もあると思うので、通常級、特別支援学級、教育センターの先生方がつながり情報を共有し合うことも大切であると思う。	不登校の状態にある子どもに対し、「学びの多様化プロジェクト 2024 -2028」を策定し、進路相談を含む相談の場づくりに取り組み、個々に応じた連携を行ってまいります。
3	中学校の特別支援学級の卒業生の進学先は、特別支援学校高等部以外にもいろいろな選択をしている生徒がいることがわかった。こういった生徒たちの進路指導はどのように行われているのか。	各中学校で進路指導担当教員や担任を中心に進路指導を行っております。進路指導担当教員を中心に、日ごろから学校間で情報共有等を図っております。
4	中学校の卒業後の進路について、2022年度は、特別支援学校に進学した生徒は6割を切っている。中学校卒業後の進路について、高校受験等の見通しがもてるとよいと感じる。	上記3に同じ。 引き続き、進学に関する情報提供等を各学校に積極的に行ってまいります。

<その他> (7件)

番号	ご意見の概要	市教育委員会の考え方
1	サポートルームの指導期間を必要に応じた期間に延ばせるようにしてほしい。 サポートルームの延長について、指導によって生徒の成長につなげ、成果を上げるには、時間がかかる。2年間の指導では不安に思う生徒や保護者がいるので、できる限り特例の延長を認めてほしい。	サポートルームの指導期間は、東京都教育庁で示されたガイドラインに基づき原則1年間となります。 また、原則の指導期間終了後に継続して指導が必要な児童生徒につきましては指導期間の延長及び更なる延長となる特例の延長を認めております。

2	サポートルームの説明文の中で「障がい」の言葉の記述があるが、使わないでほしい。	サポートルームに限らず、特別支援教育は、何らかの障がいがあることによって特別な支援を必要とする児童生徒が、それぞれの課題や困難さを軽減・改善して学校生活を送ることができるように、指導や支援をしております。「障がい」という言葉の使用については、貴重なご意見として検討してまいります。
3	学年担任にプラス α で学習支援員をつけてほしい。発達障がい、情緒障がいを持つ児童が支援員のサポートがあることで通常の学級の中で学習できる実態がある。担任が授業を進めながら、騒いだり暴れたりする児童に寄り添う支援員がいることで他の学級児童が影響なく、学習することができる。学習支援員を増やすことで、児童の学習の質が高まると思う。	特別支援教育支援員は、特別な支援を必要とする児童生徒の対応をするために教員の補助として全校に配置しております。移動の介助、安全配慮など様々な支援がございしますが、学習支援に特化してはおりません。貴重なご意見として参考にさせていただきます。
4	通常の学級に支援を必要とする生徒がいるが、担任だけでの対応ができず、人員が足りない。特別支援教育を推進していくためにも完全副担任制ができるよう人員が必要である。	教員の採用や人数配置につきましては、東京都が採用を行い、基準に応じて決められた人数の配置をしております。貴重なご意見ありがとうございました。
5	サポートルームに新規採用教員が配置される場合が多い。生徒指導経験者を配置してほしい。また、サポートルームの年度途中の入級者が多く、教員が足りない。途中入級者を見込んで教員を追加配置ができないか。	上記4に同じ
6	特別支援学級やサポートルームを希望する教員を増やすために、待遇の工夫、採用選考の工夫など検討していただきたい。	上記4に同じ
7	小学校で言語聴覚士による療育を受けられるようにしてほしい。	小学校では、言語障がいのある児童に対して「ことば教室」の通級指導学級を設置して構音障がいや吃音の指導を行っております。指導担当教員は言語聴覚士ではございませんが、有効な指導ができるよう研修や経験を重ねております。